

3 我孫子市が目指す小中一貫教育

(1) 我孫子市第四次総合計画

魅力ある学校づくり ⇒ 子どもがいきいきと輝く学校づくり

○育ちと学びの接続を重視し、豊かな人間性や社会性をはぐくむため、幼稚園、保育園、認定こども園と小学校の連携、小中一貫教育を推進します。

○「地域とともにある学校」として、地域と「目指す子ども像」を共有し、保護者、地域、大学、高校と連携して、自然、歴史、文化、人材などの地域資源を活用しながら、地域全体で子どもの育成を図ります。

我孫子市教育施策目標 ⇒ 子どもの創造性と自主性を育む教育の充実

我孫子市学校教育重点目標 ⇒ 「生きる力」の育成

豊かな心の育成

確かな学力の育成

健やかな体の育成

(2) 小中一貫教育のねらい

我孫子市の未来を拓く 心輝く教育

～ 9年間の連続した学びと小中の協働*を通して ～

※小中の協働…目指す15歳の姿やグランドデザインを目標に、小中の教員、保護者、地域がともに力を合わせて活動すること。



未来を拓く

- ・「ふるさと我孫子」を愛し誇りに思う
- ・夢に向かって志高く
- ・グローバルな視点

我孫子市には、利根川と手賀沼に育まれた文化、歴史、自然そして都市的住環境があります。自然と都市がバランスよく融合しています。そして、人々は、それぞれの地域に根ざし、深く結びついています。

教育的価値の高い「ひと・もの・こと」との関わりを子どもたちが深めることで、自分の生き方を見つめ、郷土を愛し誇りに思う心が育ちます。

子どもたちは、心のよりどころ・自己存在感をしっかりと持つことで、夢を持ち、夢に向かって努力し、夢を実現できると考えます。将来、我孫子、日本そして世界の姿を描き、自立した行動による自己実現ができる力の基礎を、義務教育9年間をつなぐことで築きたいと考えます。



心輝く

- ・自分に自信が持てる
- ・自他を大切にできる

人間関係の希薄化が叫ばれ、子どもたちに道徳性やコミュニケーション能力を身に付けさせることが課題となっています。9年間の学校生活を通して連携することで、小学生は中学生に憧れを持ち、中学生は自分の成長を感じることが出来ます。「ひと」と「ひと」が触れ合うことで、児童生徒は社会性や自己有用感・自己肯定感を身に付け、豊かな人間性を育てていきます。これにより、弱いものを慈しみ、他者を思いやる心が育ちます。異学校種や同学校種間の連携活動を行うことで、教職員が幅広く長く多様な眼差しで児童生徒を指導・支援できるだけでなく、児童生徒自らも9年間の見通しの中で、自己の成長発達を感じ取り、自らを高めることができると考えます。

(3)目指す子ども像

我孫子市の小中一貫教育のもとに目指す子ども像は、以下の3つです。

- 「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども（郷土愛）
- 確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども（未来を拓く力）
- 自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども（輝く心）

【 目指す子ども像を育成するための重点と構成要素 】

子ども像 重 点	「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども	確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども	自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども
コミュニケーション力	共感・理解力、人間関係力	言語力、発信力	共感・理解力、人間関係力
チャレンジ力	課題発見力	見通す力、気力、活力、忍耐力	
豊かな心	思いやり、自然・崇高なものに感動する心		思いやり、命を大切にする、人の痛みがわかる、自己有用感を持つ

「目指す子ども像」を育成するためには、「コミュニケーション力」、「チャレンジ力」、「豊かな心」という三つの重点を義務教育9年間の継続的、系統的なカリキュラムの指導の中で、また、小中及び小小の連携を進める中で、バランスよく育てていくことが大切と考えます。また、それぞれを構成する要素として、上表のように整理しました。これを踏まえた、それぞれの発達段階における具体的な子どもの姿を以下のように捉え、実現に向けて教育活動を進めていきます。

○「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども（郷土愛）

- 初期**・自分の暮らす地域や、学区の様子について興味を持ち、仲間と協力して進んで調べたり話し合ったりする。
- 前期**・我孫子市について興味や関心を持ち、仲間と協力して市の様子や歴史について進んで調べたり、話し合ったりする。また、学んだことをもとに、我孫子市の良さや課題を話すことができる。
- 中期**・我孫子市について興味や関心を持ち、千葉県における我孫子市、日本における我孫子市という広い視野をもって理解を深めている。また、ふるさと学習やキャリア

ア教育を通して、我孫子の良さや課題を伝えることができる。

- 後期・世界における我孫子市という広い視野をもって、我孫子市について理解を深めている。ふるさと学習やキャリア教育を通して学んだことをもとに、我孫子市の良さや魅力、課題について仲間と語り合い、自分の思いを他者に伝えることができる。今後の我孫子市について、市民として市の発展に貢献しようとしている。

○確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども（未来を拓く力）

- 初期・幼児期の教育で養われた力を活かしながら、確かな学力を身につけ、身近な課題に対して見通しを持って粘り強く取組み、課題解決に向けて自分の考えや思いを発信することができる。
 - 希望や目標を持ち、その実現に向けて日常の生活をよりよくしようとする。
- 前期・確かな学力を身につけ、自身や身近な人が関わる課題に対して見通しを持って粘り強く取組み、課題解決に向けて自分の考えや思いを、適切な表現を用いて発信することができる。
 - 希望や目標を持ち、学ぶことの意義や現在の学習と自己実現とのつながりを考えたり、見通しを持って行動したりしている。
- 中期・確かな学力を身につけ、日本や世界の魅力や問題に目を向けつつ、自分や身近な人が関わる課題に対して見通しを持って粘り強く取組み、課題解決に向けて自分の考えや思いを、伝わりやすい表現を用いて発信することができる。
 - 希望や目標を持ち、学ぶことの意義や現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、見通しを持って行動したりしている。
- 後期・確かな学力を身につけ、日本や世界の魅力や問題に目を向けつつ、自分や身近な人が関わる課題に対して見通しを持って粘り強く取組み、課題解決に向けて自分の考えや思いを、相手に応じた表現を用いて発信することができる。
 - 学ぶことと働くことの意義を意識し、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えている。目標を持って、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らし合わせて考え、目標を達成しようとして努力している。

○自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども（輝く心）

- 初期・身近な人との関わりの中で役に立ったり認められたりする経験を通して自己有用感を持ち、意欲的に行動する。身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。
- 前期・身近な人との関わりや集団の中で役に立ったり認められたりする経験を通して自己有用感を持ち、意欲的に行動する。相手のことを思いやり、進んで行動する。

中期・身近な人との関わりや集団の中で役に立ったり認められたりする経験を通して自己有用感を持ち、意欲的に行動する。誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしている。

後期・身近な人との関わりや集団の中で役に立ったり認められたりする経験を通して自己有用感を持ち、意欲的に行動する。思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに答え、人間愛の精神を深めている。

【用語解説】

「学力」

生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の、新しい時代に必要となる資質・能力。
(「小・中学校学習指導要領」(平成29年告示) より)

「豊かな心」

豊かな心とは、例えば、困っている人には優しく声を掛ける、ボランティア活動など人の役に立つことを進んで行う、喜びや感動を伴って植物や動物を育てる、自分の成長を感じ生きていることを素直に喜ぶ、美しいものを美しいと感じることができる、他者との共生や異なるものへの寛容さをもつなどの完成及びそれらを大切に作る心である。

(「小・中小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編」H29.7 文部科学省 より)

「人間関係力」

人間関係をよりよく形成する力。年齢や性別といった属性、考え方や関心、意見の違い等を理解した上で認め合い、互いの良さを活かすような関係を作る力。

(「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編」H29.7 文部科学省 より)

「自己有用感」

人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価。

(H27.3 文部科学省国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター

(「生徒指導リーフ『自尊感情』?それとも、『自己有用感』?Leaf.18」 より)

(4)小中一貫教育推進の方法

小中一貫教育の推進には、各学校が9年間の義務教育の成果と課題を共有することが大切と考えます。子どもたちの学習・生活の実態を捉え、より効果的、効率的な指導を行うことで、9年間の「学びと成長」を共有することができます。

各中学校区の独自性を重視しながら、「**つなぐ**」という言葉のポイントにして、次の①～③の3項目を実践します。

① 「環境」 で つなぐ

我孫子市の教育重点目標である「生きる力」を育成するためには、「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育が必要です。そのための基盤となるのが、基本的な生活・学習習慣です。それぞれの中学校区で、児童生徒の実態や発達段階を踏まえて、生活のきまりや学習のきまりを統一したり、系統化したりすることにより、義務教育9年間を通して基本的な生活・学習習慣を身につけさせます。また、そうした生活や学習のきまりを、学校の全教職員、家庭や地域に周知し共通理解を図り、学校と家庭、地域が一体となって取り組めるような環境づくりを進めます。

例) 生活のきまり…「あいさつ・返事」「言葉遣い」「清掃」に関することなど

学習のきまり…「学習準備」「板書・ノートの書き方」「発表の仕方」「家庭学習」に関することなど

〈参考〉これまでの各中学校区での取組（アンケートより）

【生活】「生活ガイドライン」の作成・合同あいさつ運動の実施・生活面に関する共通の合い言葉の設定 等

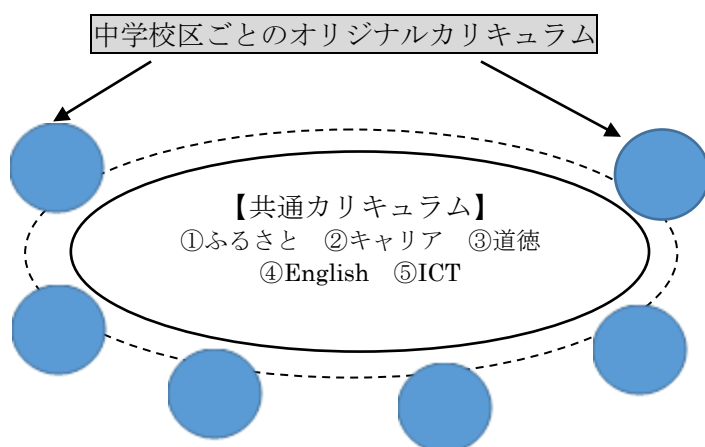
【学習】「話し方・聞き方」のルールづくり・板書の構図の統一・学習問題やまとめの枠の色の統一・「家庭学習の手引き」の作成 等

② 「学習」 で つなぐ

児童生徒に確かな学力を身につけさせるために、各中学校区において、各種の学力調査等の結果分析をもとに学習指導の内容と方法について連携し、取組みの充実を図ります。また、総合的な学習の時間や特別活動等における現状を見直し、重複や飛躍した部分がないかなど、系統性・継続性のあるカリキュラム構成と指導内容の工夫に積極的に取り組みます。

共通カリキュラム（市内共通） と オリジナルカリキュラム（各中学校区）

市内の全小・中学校で指導するカリキュラムを「共通カリキュラム」と称し、また、中学校区の特性及び児童生徒の実態を基に、中学校区独自で作上げたカリキュラムを「オリジナルカリキュラム」と称して、カリキュラム構成の充実を図ります。



○オリジナルカリキュラムの例
(年間指導計画に
位置づけられている教育活動)

- ・地域、環境、国際理解、情報、福祉等を題材とした学習
- ・教科、領域において9年間の指導の系統性を踏まえた活動
- ・小・小、小・中間の交流活動等

③ 「人」で つなぐ

まずは小中の教職員間のつながりが重要であると考えます。お互いの指導者が顔を合わせ顔と名前を一致させることが、全てのスタートになります。様々な機会を活用して、小中の教職員が交流することにより理解し合い、人間関係やネットワークが構築されることは、小中一貫教育において大変重要なことです。

児童生徒の異学年連携は、上学年はリーダーシップを発揮し、下学年は、学習や生活の仕方を学ぶ機会になります。こうした活動が、児童生徒の意欲や自尊感情を高めることになります。このことが学習意欲にもつながり、学力向上に結びつくものと考えます。